

基本目標と施策の体系（案）について

現 計 画（R6～8）		次 期 計 画（R9～11）		資料 3
①基本理念：共に支えあい、生涯自分らしく暮らし続けられる社会の実現		⑥基本目標		
②基本目標		高齢者が、主体的に健康づくりに取り組みながら自分らしく活躍することができるとともに、地域で共に支え合い、心身の状態に関わらず生きがいをもち、安心して暮らし続けられる社会を実現します		
高齢者が健康で生きがいを感じながら、心豊かに自分らしく活躍することができるとともに、地域で共に支えあい、将来にわたり誰もが安心して暮らし続けることができる社会を実現します		【評価指標】 1 要介護認定率 2 (1)地域資源の登録数 (2)地域包括支援センターの認知度(高齢者一般調査) 3 (1)在宅サービスに対する満足度 (2)施設サービスに対する満足度 (3)ケアマネジャーや地域包括支援センターに対する満足度 ※3(1)～(3)はいずれも要介護者等調査		
③方針（Ⅰ～Ⅲ） ④施策（1～8）	⑤課題・今後の方針	⑦方針（Ⅰ～Ⅲ） ⑧施策（1～8）	⑨実現するために必要となる視点 （★は新規の視点）	⑩主な取り組み （◎は新規、●は拡充、○は継続の取り組み）
Ⅰ 社会の変化に対応しながら、高齢者が健康で自分らしく活躍することができるような取り組みや環境づくりを進めます		Ⅰ 社会環境が変化するなかでも、高齢者が健康づくりに主体的に取り組み、いきいきと自分らしく、活躍できる環境づくりを進めます		
高齢者の健康と生きがいを支える取り組みや、地域づくりへの支援の充実	○介護・フレイル予防は、早期の気づきによる自分事化と様々な地域資源等を活用したセルフマネジメントにつなげることが重要である。 ○通いの場等の地域資源の充実、および必要な方に情報が届くようICT等も活用しながら情報発信を行う必要がある。	1 介護・フレイル予防活動の更なる活性化と地域における持続可能なフレイル予防の仕組みの確立	・介護・フレイル予防活動の充実 ・民間活力も活かした健康への関心・意識の引き上げ ★地域資源等も活用したセルフケアの意識醸成による自立的な健康づくりの促進 ★支援につながない人の把握とアウトリーチの強化 ・活躍し続けられる環境づくり ・ICTの活用による効率化・利便性の向上（事業所・利用者の双方への支援）	●フレイルサポーターによる市民協働でのフレイル予防活動の拡充 ●効果的な運動・口腔機能の維持・向上や、栄養改善に向けた訪問・通所運動型短期集中予防サービスの拡充 ●心身の状態や生活課題に応じ、高齢者一人ひとりの力を活かす介護予防ケアマネジメントの推進
高齢者の意欲と経験に応じた活躍の後押しする取り組みや、環境づくりの推進	○高齢化の進行により外出や社会参加の機会が減少する中、地域活動への関心を高めて参加につなげるとともに、ライフステージに応じた活躍の場の確保や、就労意欲のある高齢者への支援が必要である。	2 高齢者の活躍を後押しし、地域社会に貢献できる環境づくりの推進	・身近な通いの場等の充実 ・活躍し続けられる環境づくり【再掲】 ・ニーズに応じた就業に関する相談体制 ・多様な就労機会の創出	◎高齢者就労の好事例の情報発信 ●アクティブシニア・ボランティアポイント制度の推進 ○敬老乗車証の運用による外出支援
社会の変化へ柔軟に対応する取り組みの強化	○社会構造の変化に伴うニーズの多様化や担い手不足への対応を踏まえつつ、地域支え合い体制の持続性を確保し、高齢者が活躍できる環境整備が必要である。	3 社会環境の変化を踏まえた支援と持続可能な取り組みの推進	・ICTの普及とそれらを活用した負担軽減 ・社会・技術の変化に即した制度の見直し ・担い手不足解消の取組 ・活躍し続けられる環境づくり【再掲】 ・ニーズに応じた就業に関する相談体制【再掲】	◎ICT等を活用した見守りシステムの調査・検討 ○終活を支援するための取り組み ◎地域の通いの場など多様な地域資源の情報発信強化と活用促進
Ⅱ 地域で共に支え合い誰もが自分らしく暮らし続けることができるよう地域包括ケアシステムの体制を強化します		Ⅱ 地域における支え合いのもと、高齢者一人ひとりが自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの持続性の確保と深化に取り組みます		
地域における安心の確保や自立した暮らしの継続を可能とするきめ細かな支援の充実	○高齢化の進展に伴う相談件数の増加や、多様化・複雑化する生活課題に対応するため、高齢者一人ひとりの支援ニーズを踏まえた支援の充実や災害時などにおける持続的な支援体制の強化を進める必要がある。	4 一人ひとりの状況に応じ、地域で安心して暮らし続けられるための支援の充実	★多種多様なニーズへの対応（一人暮らし世帯の増・在宅介護のニーズ増） ・災害発生時・感染症流行時でも継続できるサービス提供体制 ・身体や生活の状況などに応じた居住支援 ★家族等介護者（ケアラー）への支援	◎ICT等を活用した見守りシステムの調査・検討【再掲】 ●介護予防・日常生活支援総合事業による生活支援サービスの充実 ○地域包括支援センターによる総合相談・支援事業
地域の多様な主体が連携する支え合い体制づくりの取り組みの強化	○地域ケア会議などを通じ、医療・介護・相談機関や地域の関係者のさらなる連携強化を図るとともに、地域包括支援センターの負担軽減に向けた取組の推進を図るなど、持続可能な支え合い体制づくりを進める必要がある。	5 地域の多様な主体の連携強化による切れ目のない支援体制づくりの推進	・医療・介護需要増加への対応 ・地域への情報発信（社会資源の見える化） ・医療・介護・相談機関や地域との関係者との連携 ・切れ目なく必要なサービスを受けられる体制・地域づくり ・ICTの活用等による地域包括支援センターの負担軽減	◎地域の通いの場など多様な地域資源の情報発信強化と活用促進【再掲】 ◎地域包括支援センターの持続的な業務運営の確保に向けた手法の検討 ○地域包括ケアシステム構築・推進に向けた関係機関や地域とのネットワークづくり等の推進
認知症の人と家族が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らし続けることができる共生社会づくりの推進（認知症施策推進計画）	○認知症に対する正しい理解の促進と、診断、相談後の切れ目ない支援体制を強化することにより、本人・家族が地域で尊厳と希望を持って暮らし続けることができる共生社会の実現を図る必要がある。	6 新しい認知症観に基づく共生社会づくりの推進（認知症施策推進計画）	・市民一人ひとりが認知症への理解を深める取り組みの推進 ・認知症の人と家族の生活におけるバリアフリー化の推進 ・医療、介護専門職等の多職種連携による認知症への対応力の強化	◎新しい認知症観の実感的理解に関する取り組みの推進 ●認知症地域支援推進員による仙台版チームオレンジの活動促進 ○認知症疾患医療センターによる鑑別診断や相談、関係機関との連携、診断後支援の拡充
Ⅲ 将来にわたって必要な介護サービスが受けられるよう持続可能な体制を構築します		Ⅲ 将来にわたって必要な方が適切に介護サービスを受けられるよう、持続可能なサービス提供体制の構築を進めます		
中長期的な視点を重視した介護サービス基盤の整備	○社会情勢の影響等により、介護サービス基盤の整備の進捗に一部遅れが生じていることから、施設整備の公募に係る事業者の応募環境の向上を図るなど、必要な介護サービス基盤の整備を着実に進めていくための手法等について検討していく必要がある。 ○介護ニーズの多様化を踏まえ、適切な介護サービスを提供できるよう、介護サービスの質の確保及び向上を図る必要がある。	7 中長期的な視点を重視した介護サービス基盤の整備や事業運営を支える取り組み	・介護サービスを提供するための計画的な介護サービス基盤の整備 ・適切な介護サービスの提供に向けた事業所や施設への指導及び支援	○特別養護老人ホーム等の施設及び地域密着型サービスの計画的な整備 ○サービスの質の向上に向けた事業者や施設への運営指導及び集団指導の実施 ○関係団体等と連携した介護支援専門員（ケアマネジャー）に対する研修の実施
介護人材の安定的な確保・育成に向けた支援の充実と介護業務の効率化の推進	○介護需要の増加を見据えた、将来の介護の担い手づくりをはじめ、多様な人材の確保や育成・定着支援の充実を図るとともに、介護職員や事業者等の負担軽減を図ることが必要である。	8 深刻化する介護の担い手不足に対応する人材確保・定着支援と介護業務負担の軽減	・若年層に対する介護職の魅力発信の強化 ・多様な人材の更なる活用促進 ・安心して働き続けられる環境づくりの推進 ・ICTの普及とそれらを活用した負担軽減【再掲】	◎若い世代を対象とした福祉体験機会の提供 ●事業者における多様な人材の活用促進 ◎介護情報等を電子的に共有できる介護情報基盤の普及促進